



Q4: 貴社の、ここ数年の業績は、どうですか。

(1)~(2)のそれぞれについて、最も近いもの1つずつに、○を付けて下さい。

		かなり 下向き	すこし 下向き	おおむね 横ばい	すこし 上向き	かなり 上向き
(1)	売り上げ	1	2	3	4	5
(2)	利益	1	2	3	4	5

Q5: 貴社では、下記の【A】と【B】では どちらを重視していますか。

(1)~(9)のそれぞれについて、最も近いもの1つずつに○を付けて下さい。

		Aを重視			Bを重視				
		【A】 ←————→ 【B】							
(1)	新卒採用	1	2	3	4	5	6	中途採用	
(2)	正社員の採用	1	2	3	4	5	6	非正規社員の採用	
(3)	既存人材の定着	1	2	3	4	5	6	新規人材の採用	
(4)	終身雇用	1	2	3	4	5	6	人材の新陳代謝	
(5)	年功主義	1	2	3	4	5	6	成果主義	
(6)	退職金・退職年金	1	2	3	4	5	6	給与・賞与	
(7)	退職金・退職年金	1	2	3	4	5	6	福利厚生 (住宅手当など)	
(8)	老後資金を会社が 会社負担で準備	1	2	3	4	5	6	老後資金を社員が 自助努力で準備	
(9)	人事制度の 長期的な継続	1	2	3	4	5	6	人事制度の こまめな見直し	

Q6: 貴社の従業員は何人ですか。雇用形態ごとにお答え下さい。

※おおよその数で結構です。

(1) 正社員	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(2) 定年退職後の再雇用者	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(3) 有期契約社員 ((2)(4)以外)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(4) 短時間パート やアルバイト	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人

Q7: 貴社の正社員について、下記の割合をお答え下さい。

※割合や勤続年数や年齢は、おおよそで結構です。

【勤続年数別の割合】 ※正社員

(1) 勤続10年未満	約 <input type="text"/>	割
(2) 勤続10～30年	約 <input type="text"/>	割
(3) 勤続30年超	約 <input type="text"/>	割

【50歳以上の割合】 ※正社員

(4) 50歳以上	約 <input type="text"/>	割
-----------	------------------------	---

【女性の割合】 ※正社員

(5) 女性	約 <input type="text"/>	割
--------	------------------------	---

※(1)～(3)の合計を10割にしてください。

Q8: 貴社の昨年度(1年間)の正社員の入社者や退職者は、何人ですか。

※人数や年齢や勤続年数は、おおよそで結構です。

【入社】 ※正社員

(1) 新卒入社	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(2) 中途入社 (40歳未満)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(3) 中途入社 (40歳以上)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人

【退職】 ※正社員

(4) 定年退職・ 会社都合	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(5) 自己都合 (勤続10年未満)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人
(6) 自己都合 (勤続10年以上)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	人

Q9: 貴社の正社員の定年年齢は何歳ですか。

1. 60歳	2. 61～64歳	3. 65歳
4. 66歳以上	5. 定年はない	

◆ここからは、貴社の退職金や退職年金(企業年金)制度について、お聞きします。

Q10: 貴社の退職金や退職年金の制度に、次のメリットやデメリットを感じますか。

(1)~(16)のそれぞれについて、最も近いもの1つずつに○を付けて下さい。

(貴社に退職金や退職年金がない場合は、メリットは退職金や退職年金があったと考えて、デメリットは貴社が退職金や退職年金を行っていない理由と考えて、答えて下さい)

【退職金や退職年金のメリット】		← まったく 感じる →					
		1	2	3	4	5	6
(1)	社員が老後を安心して働ける	1	2	3	4	5	6
(2)	社員の貢献意欲が向上する	1	2	3	4	5	6
(3)	仕事を受注しやすくなる	1	2	3	4	5	6
(4)	会社の節税効果	1	2	3	4	5	6
(5)	優秀な人材の新卒採用	1	2	3	4	5	6
(6)	優秀な人材の中途採用	1	2	3	4	5	6
(7)	若手社員の退社防止	1	2	3	4	5	6
(8)	中堅社員の退社防止	1	2	3	4	5	6
(9)	ベテラン社員の退社防止	1	2	3	4	5	6
(10)	人材のスムーズな入れ替わりを促す	1	2	3	4	5	6

【退職金や退職年金のデメリット】		← まったく 感じる →					
		1	2	3	4	5	6
(11)	制度設計や申請手続きの負担 (導入や見直しの際の <u>一時的な負担</u> )	1	2	3	4	5	6
(12)	制度運営の事務負担 (運営している最中の <u>定常的な負担</u> )	1	2	3	4	5	6
(13)	社員が制度の恩恵を理解しない (給与・賞与と比べて)	1	2	3	4	5	6
(14)	会社の資金繰りへの負担	1	2	3	4	5	6
(15)	柔軟な新規投資の制約	1	2	3	4	5	6
(16)	運用利回りが不確実	1	2	3	4	5	6

Q11: 貴社の退職金や退職年金では、新卒で入社して定年で退職するような社員が、退職金や退職年金を総額でいくらかい受け取れる設計になっていますか。  
次の中で当てはまるもの1つに、○を付けて下さい。

※退職年金は全額を一時金で受け取ったとして、金額に含めてください。  
(新卒採用や定年がない場合は、30~40年程度働いた場合を想定してください)

- |                |                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1. ゼロ(退職金なし)   | 2. 1~250万円     | 3. 251~500万円   | 4. 501~750万円   |
| 5. 751~1000万円  | 6. 1001~1250万円 | 7. 1251~1500万円 | 8. 1501~1750万円 |
| 9. 1751~2000万円 | 10. 2001万円以上   | 11. わからない      |                |

Q12: 上記の金額は、どの学歴の社員を考えて設計したものですか。  
次の中で最も近いもの1つに、○を付けて下さい。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 高卒の社員      | 2. 大卒の社員       |
| 3. 学歴は想定していない | 4. その他( )      |
| 5. わからない      | 6. 退職金や退職年金がない |

Q13: 貴社の退職金や退職年金の支給額は、ある勤続年数で大きく増える設計  
(いわゆるS字カーブ。右下の図のイメージ)ですか。  
(退職金や退職年金の制度がない場合は、「2」を選んで下さい)

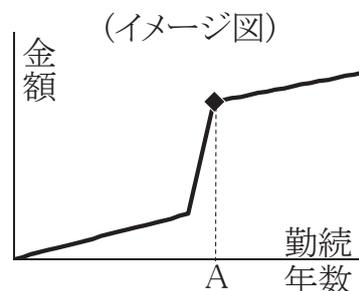
- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

SQ13: 勤続何年目に最も大きく増える設計ですか。  
(右の図のAの年数。おおよそで結構です)

勤続 

..... ..... .....
-------------------------

 年目くらい



Q14: 貴社の退職金や退職年金には、次の加算がありますか。

(退職金や退職年金の制度がない場合は、「2」を選んで下さい)

(1) <u>早期退職</u> を促す加算 (臨時的な希望退職者の募集時などを除く)	1. ある	2. ない
(2) <u>定年退職者</u> に必ず付く加算	1. ある	2. ない

Q15: 正社員以外には、退職金または退職年金が支給されますか。

(退職金や退職年金の制度がない場合は、「2」を選んで下さい)

(1) <u>定年退職後の再雇用社員</u> (定年を理由に受け取った退職金・退職年金 <u>以外</u> )	1. 支給される	2. 支給されない
(2) <u>他の有期契約社員</u> (短時間パートを含む)	1. 支給される	2. 支給されない

Q16: 貴社の退職金や退職年金では、どのような受け取り方が利用可能ですか。

(退職金や退職年金の制度がない場合は、「2」を選んで下さい)

(1) 一時金 (一括で受け取り)	1. 利用できる	2. 利用できない
(2) 有期年金 (10年など受取期間が決まった年金)	1. 利用できる	2. 利用できない
(3) 終身年金 (死亡するまでずっと受け取れる年金)	1. 利用できる	2. 利用できない

Q17: 貴社の退職金や退職年金について、社員への説明会等(セミナーや研修等)をいつ開いていますか。次の中で当てはまるものすべてに、○を付けて下さい。

1. 入社時	2. 50歳未満の時(退職直前以外)
3. 50歳代(退職直前以外)	4. 退職直前(=退職が決まってから)
5. 説明会等は開いていない	6. 退職金や退職年金の制度がない

Q18: 貴社の退職金や退職年金の中で、最も古いものはいつ始まりましたか。  
次の中で当てはまるもの1つに○を付けて下さい。

- |               |                   |               |
|---------------|-------------------|---------------|
| 1. 2007年以前    | 2. 2008～2012年     | 3. 2013～2014年 |
| 4. 2015～2018年 | 5. 退職金や退職年金の制度がない |               |

Q19: 貴社の退職金や退職年金の給付水準を、今後どのようにしようと思えますか。  
下記のそれぞれについて、最も近いもの1つずつに、○を付けて下さい。  
(現在は退職金や退職年金がなく 今後も変えない場合は「1」を選んで下さい。  
現在は退職金や退職年金がなく 今後 新たに始める場合は「4」を選んで下さい)

	ゼロにする (廃止する)	現在より 減らす	現在 並み	現在より 増やす
(1) 現在働いている正社員	1	2	3	4
(2) 今後入社する正社員	1	2	3	4
(3) 今後の、定年退職後の 再雇用社員	1	2	3	4
(4) 今後の、有期契約社員 (短時間パートを含む)	1	2	3	4

Q20: 貴社の退職金や退職年金の見直しを検討する際、社外の誰からのアドバイス  
を参考にしますか。次の中で当てはまるものすべてに○を付けて下さい。

- |              |             |                       |              |
|--------------|-------------|-----------------------|--------------|
| 1. 銀行        | 2. 信用金庫     | 3. 信用組合               | 4. 労働金庫      |
| 5. 信託銀行      | 6. 証券会社     | 7. 生命保険会社             | 8. 損害保険会社    |
| 9. 税理士       | 10. 社会保険労務士 | 11. 経営コンサルタント・中小企業診断士 |              |
| 12. 親会社・関連会社 | 13. その他( )  |                       | 14. 誰も参考にしない |

SQ20: 最も参考にするのは、誰のアドバイスですか。

上の番号から1つだけ選んで、右の枠に書いて下さい。

--

※全員がお答え下さい。誰のアドバイスも参考にしない場合は「14」と書いて下さい。

Q21:社員\*が100人以下の企業では「iDeCo+」と「簡易型DC」が利用可能です。  
もし仮に、この制度が貴社でも利用可能になったら、どう利用しようと思いますか。  
最も近いもの1つに、○を付けて下さい。(※厳密には厚生年金加入者数)

「iDeCo+」(イデコ・プラス)の概要

- ・**制度の概要**: iDeCo(個人型確定拠出年金)に加入している従業員の掛金に事業主が追加して拠出できる制度。対象者を限定可能。
- ・**企業の条件**: 退職年金(企業型確定拠出年金や確定給付企業年金や厚生年金基金)を実施していない。この拠出に労使の合意がある。
- ・**掛金の条件**: 従業員と事業主の合計(月5,000~23,000円)を事業主が納付。従業員分はゼロ円にできない。事業主分は損金算入。

「簡易型DC(確定拠出年金)」の概要

- ・**制度の概要**: 従来の企業型確定拠出年金よりも、手続き等を簡素化した制度。
- ・**利用の条件**: 対象者を限定できない。掛金は全員一律で定額。

	(1) iDeCo+	(2) 簡易型DC
現在は退職金制度がないので、 <u>新たに</u> 利用したい	1	1
現在の退職金制度への <u>上乗せ</u> として、利用したい	2	2
現在の退職金・年金を縮小・廃止して、 <u>代わりに</u> 利用したい	3	3
利用は <u>難しい</u>	4	4
わからない	5	5

SQ21-1:「iDeCo+」(イデコ・プラス)の利用が難しい理由は何ですか。

次の中で当てはまるものすべてに○を付けて下さい。

- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 現在の退職年金を <u>廃止</u> できない      | 2. 従業員の掛金を <u>ゼロ円</u> にできない      |
| 3. 掛金の <u>下限</u> (労使計5,000円)が高い | 4. 掛金の <u>上限</u> (労使計23,000円)が低い |
| 5. <u>導入</u> の検討や手続きが負担になる      | 6. 制度を <u>運営</u> する事務が負担になる      |
| 7. その他( )                       |                                  |

SQ21-2:「簡易型DC (確定拠出年金)」の利用が難しい理由は何ですか。 ←

次の中で最も大きな理由1つに○を付けて下さい。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 対象者を限定できない | 2. 掛金が全員一律で定額 |
| 3. その他( )     |               |

◆最後に、退職金や退職年金(企業年金)の財源などについて、お聞きます。

Q22: 貴社の正社員の老後資金の準備として、これまでに行ってきたものは何ですか。

(1)~(11)のそれぞれに、当てはまるもの1つずつに○を付けて下さい。

【会社が掛金や費用を負担するもの】		1. 現在 行っ て い る	2. 以前に やめた	3. 一度も 行っ て い な い
退職金	(1) 社内準備の退職金 (社内の資金で支払うもの)	1	2	3
	(2) 社外準備の退職金 (中退共、建退共、清退共、林退共、 特退共、退職手当共済、保険など)	1	2	3
退職年金	(3) 厚生年金基金 (国の厚生年金の代行があるもの)	1	2	3
	(4) 確定給付企業年金 (国の厚生年金の代行がないもの)	1	2	3
	(5) 確定拠出年金(企業型) (企業が掛金を出し、社員が資産運用)	1	2	3
他	(6) その他( )	1	2	3

※ 「(6) その他」がない場合、(6)の回答は「3」を選んでください。

【会社が給与引き去りを行うもの】 (自助努力商品)		1. 現在 行っ て い る	2. 以前に やめた	3. 一度も 行っ て い な い
個人 加入 の 給 与 引 去 り	(7) 確定拠出年金(個人型) (iDeCo・イデコ)	1	2	3
	(8) 財形年金	1	2	3
	(9) NISA・つみたてNISA (ニーサ・つみたてニーサ)	1	2	3
	(10) 個人年金保険 ・団体年金保険(任意加入型)	1	2	3
	(11) その他( )	1	2	3

※ 「(11) その他」がない場合、(11)の回答は「3」を選んでください。

※ (1)~(11)のすべてに回答して下さい。

Q23: 貴社の新卒で入社して定年で退職するような社員が受け取る退職金や退職年金の支給額(Q11)の財源は、どのような内訳になっていますか。  
 (1)~(6)のそれぞれの割合をお答えください(おおよその数で結構です)。  
 ※退職年金は全額を一時金で受け取ったとして、比率を考えてください。  
 (新卒採用や定年がない場合は、30~40年程度働いた場合を想定してください)

退職金	(1) 社内準備の退職金 (社内の資金で支払うもの)	約		割
	(2) 社外準備の退職金 (中退共、建退共、清退共、林退共、 特退共、退職手当共済、保険など)	約		割
退職年金	(3) 厚生年金基金 (厚生年金の代行あり。比率の計算に は上乗せ部分だけを含めて下さい)	約		割
	(4) 確定給付企業年金 (国の厚生年金の代行がないもの)	約		割
	(5) 確定拠出年金(企業型) (企業が掛金を出し、社員が資産運用)	約		割
他	(6) その他	約		割

※ (1)~(6)の合計が10割になるように、お答えください。おおよそで結構です。

Q24: 貴社の直近の決算書から、次の金額を書き写して下さい(おおよそで結構です)。  
 マイナスの場合は、一番左の枠に「-」と書いて下さい。  
 (回答できない場合は、一番左の枠に「×」と書いて下さい)

	兆			億			
(1) 売上高							百万円
(2) 営業利益							百万円
(3) 総資産合計							百万円
(4) 負債合計							百万円

※金融機関の場合は、(1)に営業収益(営業収入)、(2)に経常利益をご記入下さい。  
 ※おおよその金額で結構です。

Q25: 貴社では、現在、人手が不足している(もしくは余っている)と感じていますか。

(1)~(2)のそれぞれについて、最も近いもの1つずつに、○を付けて下さい。

		とても 不足	わりと 不足	すこし 不足	過不足 なし	あまって いる
(1)	正社員	1	2	3	4	5
(2)	正社員以外(パート等)	1	2	3	4	5

Q26: 貴社では、定年を迎えた社員に対して勤務延長や再雇用の制度がありますか。

制度ごとに、当てはまるもの1つずつに○を付けて下さい(a)。制度がある場合は、その制度の利用者の中で最も年齢が高い方の年齢(b)と、定年時と比べた賃金の水準(c)をお答え下さい。役員は除いて、従業員についてお答え下さい。

	(a) 制度の有無		→	(b) 最年長の利用者	歳	(c) 定年時と比べた賃金水準		割
	ない	ある				およそ		
(1) 勤務延長制度 (定年時に退職金を受け 取らずに勤務を継続)	1	2	→			およそ		割
(2) 再雇用制度 (定年時に退職金を受け 取った上で勤務を継続)	1	2	→			およそ		割

※役員は除いて、従業員についてお答え下さい。 ※(c)が定年時と同じ場合は10割とご記入下さい。

最後までお答え頂き、大変ありがとうございました。

記入漏れがないかを、もう1度ご確認下さい。

ご記入済みの調査回答用紙(この冊子)は、10月31日(木)までに

同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、お送り下さい。

よろしくお願い致します。

※分析結果の送付(電子メールを予定)を希望される方は、表紙下部に記載したお問い合わせ先へ、電子メールでご連絡下さい。